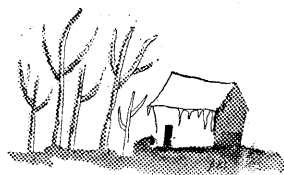


はなし言葉の指導について



長谷川朝子

ことばは社会生活における重要な用具であるから人の前でも素直に恥ずかしがらないで話ができるように指導して行かなければならないと思います。しかも自分の考えを正しく他人に伝えたり他人の意志を正しく理解するという事はことばをなかたちとして行われるのであって望ましい人格を育てる事と切りはなす事ができません。ところが私共の住む東北は一般に話す事を好まず、しかも他地方の方に比べて発表能力の点でも劣っているように思われます。東北地方の者が何故発表能力に欠けているのでしょうか。いろいろの原因があると思いますが、

1 代々人の前で発表する事を好まない親によって育てられてきた。

2 発表好きな事を「はしたない」として、人の前ではおとなしくする」「そんな事をいうと笑われる」というまちがった言葉のしつけをうけている。

3 たまたま発表型の人があると、発表の不得手な人々はかげでいろいろと批評する。

4 気候の関係から家の中にこもりがちな生活をする期間が他地方に比較して長い。従っ

①	全員揃って順に名前をよべば返事を する	31
	返事をしない	2
②	遊んでいてもよべばハイと返事 をする	6
	ナンダイとカンと返事する	5
	返事をしないでふりむく	18
	反応がない	4
③	自分からずんて話しかけてく る (内容がわかるように委しく話す)	4
	〃 (二語文程度)	6
	話しかければ返事をする (一語文)	8
	話しかければ首をふる	11
	全然反応がない	4

て人と話し合う機会も少なく話す事の修練の度が減少している。

5 発音が悪いという事を自覚している為、会の場所に出ると劣等感を抱いて発表意欲が減退する。

こうした環境の中に生をうけて育った幼児が素直に子供らしい態度と話しぶりで話す事ができるようにするにはどのように指導したらよいか、私の実践した事を述べてみます。

入園当初私の組に入ってきた三十三人の幼児について観察した記録を見ると左表のようになっています。

このような子供達にどんな言語指導をしたか。

1 名前をよばれたら返事をするという事についてみると、全員同じように名前をよばれているので返事ができるのを待ちかまえているので返事ができるが、そうでない時にはちよつとふりむくとか「なんだい」とか云って「ハイ」と返事をする数はぐっと少なくなっているので「ハイ」と返事のできた時には、ほめてやる。

2 朝のあいさつ「お早うございます」といい園便りに出席の印をつける時、登園の途中のことなど簡単に話し合います。帰る時の挨拶「さようなら」をする。

あいさつは子供の時から強いなくても大人になれば自然にできるようになるのでむりに教える必要はないという説もあるが愛情の現われとして自然に出やすい時機にその表現の方法をしらせて、それを行う習慣をつけておく方がむしろ自然であると思えます。

3 話し合い

○毎週月曜日に生活発表の時をもち、昨日の

日曜日に遊んだ事などを話し合う。

なるべく多くの子供に発言させるために教師は幼児の顔の動きをみていて話せそうなようすが見えた時にさそいかけて話させる。又「友達の話を終りまでききましよう。「話す人は友達によくわかるようにはつきりいいましよう」と約束する。

○ラジオの幼児の時間、月曜日と火曜日のお話でてこい」の放送をみんなできく。その後で今きいた事について話し合ってみた。ラジオから流れる話は話す人の顔も見えず抽象化された一面的な刺戟であって親しみを感じにくいので、聞いたことのある話とか紙芝居で見たことのある話の場合に興味をもってきくが、そうでない時には、教師が適切な解説を加えて共に笑い共にきくようにする。

○紙芝居、人形芝居幻灯など、見る事を樂しみ乍ら、話をきき、その後で今見たことについて話し合ってみた。

○絵本や記録写真を展示して話し合いのいどぐちを多く与えるようにした。

4 リズムの自由表現をさせながら動物のなき

声をまねていわせた。この事については大そう興味をもち、話すの不得手な子供も「又あれをしよう」と催促する程であった。5 ごっこ遊び、買物ごっこお客さんごっこお店やさんごっこ等で話す必要を自身で感じて話すようになった遊びに興味がのって来ると実にいきいきと話し出す。こういう時が最も多く語のうを取得する機会であると思えます。

6 恥ずかしい為に話のできない幼児には同じように内気な友達と一しょに遊ばせるようにした。小さい声で話し合っているうちに自分の話した事が友達にわかってもらえたという喜びは「又話してみよう」という気持ちに発展し発表意欲を高める事に役立つように思う。

7 テープコーダーを借りて来て自由に遊んでいる中で録音しすぐ再生してきかせた。いろいろの雑音ではっきりわからない中から、テープコーダーのそばに寄って来て教師に話しかけた子供の声ははっきりと聞えて来ると、非常に興味をもって話してみようとし、こんどは一人々々の声を録音して

きかされた。自分の声をきかれた事に対する驚きと興味とで大ぶ話そうとする意欲を高めたが、テープブロードーがないので二回しかやっていない。

○方言流行語、乱暴なことばの取扱いいについて

1 方言は非常に多くそれを神経質に矯正すれば却って言語活動を鈍らせてしまっおそれがある。それで最初は教師も或程度方言を使って幼児のことばの仲間入りをしているが幼児は言語の習得期にあるので教師はだんだんに正しいことばづかいを示して子供のことばもむりなく純化するよう努めている。方言ではないが、ていねいな言葉づかいとはき違えて、何にでも「お」をつけたり敬語を使わせるのは不自然である。方言といい敬語といい、ことばづかいをやかましく云うよりはことばの内容を問題にすべきであって、真実を語る事がのぞましく、子供らしく、思っている事を語らせるようにしたい。

2 子供にきれいな言葉や正しい言葉を身につけさせようとしても、それを裏切ってきた

ない言葉や流行語、乱暴なことばをほとんど覚えてつかいたがります。幼児はことばのよしあしよりも、新しい言葉をおぼえ、それが、通用する事に興味をもっているのでラジオや流行語の影響をうけてえたいのしれないことばを使ってみるのであるが、それを云った時すぐにききかえし幼児の心を傷つけないで反省させるようにしている。

これは時期がたてばいつか消えていくものでそれ程心配しなくてもいいと思う。

然し流行語等を使う子供がある限られた地域の子供であるという事は、人格を育てるに密接な関係のあることばの指導の上で考慮しなければならぬ問題であると思う。

小さいながら右のような努力を続けているが現在自分からは全然話をせすきかれれば首をふるだけの者が一人おり、進んで話しかけて来る者は二十人になった。

然しどんなに幼稚園で言語指導に力を入れても家庭や社会の協力がなければその効果は半減されるもので、保育参観日とか誕生会、家庭訪問等の機会を利用して次のような事を

話し協力してもらっている。

1 自分の子供をよくしたいと思うならば友達
の事、組全体の事、を考えるのでなければ、
教育効果をあげる事はできない。

友達と遊ぶと言葉が悪くなるからと云って
友達と遊ばせないのでは、社会性の発達を
妨げ、経験も乏しく従って「話題を多くも
たせる」という言語活動を盛にする為の要
因がそこなわれる事になる。

2 他人に云ってはならない事は子供の前で話
さない。何でも「これは話していけない
よ」と云われたのでは子供の話題がなくな
り子供はおどおどしてしまっ。

3 明るい気持で思った事を素直に話させるよ
う日常生活でも注意する。

4 子供の前で子供が話したである事をとり
たてて云わないこと。

「この子は人の前に出るとちっとも話をし
ないのですよ、うたならうたうのですけれ
ど」と両親が揃って云っていた子供は在園
一カ年間何も話をせず修了したのです。
それでも、うたは皆の前で一人で得意にな
ってうたうのです。こういう実例をあげて

「できない」という暗示にかけないように注意している。

5 子供がする話をきいて笑ったりけなしたりしない。大人にとっては、ささいな事であると思っても幼児にとっては、大きなショックとなり自信を失ったり誇りを傷つけられたりする事がある。これはひとり言語のみに限らず生活の全般にわたって、大切な事で、こどもの要求を察してやり、へまな事をして笑われたりしないという事をわからせる。幼児に話したことばの指導を試してみた結果、私なりに次のような事を考えさせられた。

1 経験を豊富にする事は話題を多くもたせる事である。友達とのつき合いもなく家の中でばかり大人と暮してあり、要求する事は自分で云わなくても全部大人が代弁してくれるというような生活をしている子供は自然に言葉の必要がないわけである。

2 幼児が自分の云い度い事は自分の言葉で話す機会を多くもたせる事が大切。

3 幼児は同じ話を繰返し繰返しきくので一つの話を繰返してきかせ更に話させてみる。

幼児は話す事が好きである。

4 ことばを物やことがらと結びつけて経験させ生きたことばとして覚えさせ話させるように指導する。

5 幼児どうしの交際はお互にことばを訓練し合うよい機会であること。

6 幼児に紙芝居や人形芝居やごっこ遊び等自然に話をしなければならぬような機会を与えてやると共に、人の前で話す事を恥ずかしいと思わぬような指導をする事が大切。

7 教師や母親の話してきかせることばの影響が大きいこと。

8 しらずしらずの間に耳にすることばが影響する。お弁当の時「お湯」といって要求しているところ「よし」という。たしかに父親の云うのをまねているのであろう。

9 幼児の発達段階を考慮して基礎的な指導をしないで早く上手に話させようと結果を急ぐと、幼児は逆に口をつぐんでしまう事が多い。

10 教師と幼児とのラポートがしっくりしていないために消極的な話しぶりを示す事がある。家人が折にふれ「そんな事をする」と先生に叱られる」等といつてきかせるような場合。

11 話をしない子供については、焦ってむりに話させようとする事はよくないむしろそういう事は後まわしにして

○安心して集団生活に入っていけるようなふんいきをつくる。

○仲間をもつ事によって意志交換の必要を感じさせる。

○仲間の中でものが云えるという自信をもたせる。

終りに。言葉の指導はよりよい社会生活を営む為に重要なことであるから、長じてからもいつどんな場合にも自分の考えを堂々とべる事ができ、人の話をきく事もできて、よき人間形成の目的が達しられるよう、幼児期におけることばの指導について不断の努力をして行きたいと思っています。

(筆者は福島第二幼稚園教諭)